

ミズゴマツボ

Stenothyra japonica Kuroda
新生腹足目・ミズゴマツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：-

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

福井県内では九頭竜川河口でしか確認されておらず、分布は非常に局所的である。近年の調査で、既知の生息地での生息が確認されたが、個体数は少なく、今後、環境の変化によっては容易に絶滅のおそれがあると考えられる。

種の特徴

殻高 4.0 mm、殻幅 2.0 mm 程度の小さな巻貝。体層は大きく殻高の 2/3 以上を占めている。殻は比較的厚く、殻表には光沢がある。海水の影響を受ける汽水域、水路、池等の底質が泥の場所に生息する。ヨシやマコモ等抽水植物に付着して確認されることもある。

分 布

国内では本州・四国・九州に分布する。県内では今のところ九頭竜川河口域の分布が確認されている。

生息を脅かす要因

汽水域の底質が泥の場所に生息する種であるため、埋め立てや、護岸工事による水際部のコンクリート化といった生息地の改変が主要因となる。また、上流からの不法投棄物の増加が生息を脅かしている。

参考文献 環境省編 (2014b)、福井県編 (2002)、紀平ら (2009)、黒住 (1996)、黒田 (1962)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○											○					

ミズコハクガイ

Gyraulus soritai Habe
異鰓目・ヒラマキガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：-

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

本種は日本固有種で、分布は広いが確実な産地はない。県内では 2012 年に敦賀市の中池見湿地でみつかった。湧水のある湿地の水面付近という特殊な環境に生息するが、中池見湿地で確認される個体数は少なくなため絶滅危惧II類とした。

種の特徴

殻径 4 mm、殻高 1.5 mm の微小淡水貝類。水面付近に生息しており、よく湿っていれば陸上でも活動できる。殻は飴色で光沢があり、微細な成長脈がある。螺管の周縁には角がなく丸い。殻頂はくぼみ、殻底が盛り上がる。同属他種と比べて軟体部は幅広く、触角が短い。

分 布

本州、四国、九州に分布。県内では敦賀市の中池見湿地に分布する。

生息を脅かす要因

県内の確認地点は中池見湿地だけであり、湧水環境の水面付近という特殊な環境に生息するため、湧水地点の埋没や地下水位の低下等によって容易に絶滅しうる。そのため、湿地内だけでなく集水域を含めた周辺地域の開発が本種に影響を与える可能性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)、藤野・金尾 (2012)、増田・内山 (2004)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

マツカサガイ

Pronodularia japanensis (Lea)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内全域に広く分布する種であるが、移動分散能力が低いため、圃場整備や河川改修により生息に適した環境がなくなると姿を消す。現在確認されている生息地は局所的となっている。

分 布

全国的には東北から九州にかけて広く分布する。県内では九頭竜川、足羽川、日野川、北川支流の太良庄川で生息が確認されていたが、現在、分布は局所的となっている。

生息を脅かす要因

大規模な圃場整備、河川改修等による成貝の生息場所となる砂れき質底の流失、グロキディウム幼生の宿主となるコイ科、ハゼ科の魚類の減少や、産卵母貝となるタナゴ類等の減少が要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014b)、福井県編 (2002)、増田・内山 (2010)、近藤 (1982)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○	○			○

種の特徴

殻は卵円形で、殻長 40 ~ 60 mm で 80 mm を超える個体もある二枚貝。殻頂は前方に片寄る。殻表面には本種の最大の特徴である松笠に似た逆 V 字型の彫刻がみられるが、成長と共に消滅する。小川や水路、ため池や湖等に生息し、底質が砂れきの場所を好む。